

AUTOMOTIVEアフターマーケット

2016年11月1日 株式会社自動車新聞社 発行

国際福祉機器展HCR2016出展の最新の福祉機器車輛の特集に
WAOLレンタカーの取組みが掲載されました。

整備・部品・用品の総合情報誌 — グローバルビジョン —

AUTOMOTIVE

1978年8月13日 第3種郵便物認可 2016年11月1日発行
誌号 703号 (毎月1日・月1日発行) ISSN 1345-0315



アフターマーケット

General information magazine of auto supplies, parts and maintenance

特集

特耳より最新情報

狙いは販売会社とお客様の接点拡大
アマゾンにダイハツオフィシャルストア開設

2016

No.703

NO

SS事業は整備工場の新たな活路か!?

ガンリンは「最強の集客商品」



お客様も大満足!
ヘッドライトサービスで
単価アップを図れ!!

最新 特選 情報

走る楽しさと上質な乗り心地を両立!
Honda STEP WGN Modulo X 登場

最新のバッテリーは「突然死」が不可避
予防交換でお客様の安全を守ろう!

<http://www.jidoshashinbun.co.jp>

2016年11月1日発行
Jidoshashin Co. Ltd. 代表取締役社長 杉本 浩一
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL: 03-5561-1111 FAX: 03-5561-1112
E-MAIL: info@jidoshashinbun.co.jp
C01161101

01161101

最新の福祉車両が一堂に集結!!

国際福祉機器展 H.C.R.2016

10月12～14日にかけて、アジア最大規模の国際展示会である「国際福祉機器展 H.C.R.2016」が、東京ビッグサイトで開催された。展示会には自動車メーカーの福祉車両など、自動車業界からも福祉機器が展示された。ここでは、展示内容の一部を紹介する。

トヨタ

2015年12月に発売された新型「プリウス」の「助手席回転チルトシート車」、運転補助装置を装着した「フレンドマチック取付用専用車」をはじめ、「エスクァイア」「スペイド」「ハイエース」「ノア」「レジアスエース」の福祉車両や、手足が不自由



プリウス フレンドマチック取付用専用車。車いすを電動でルーフ上に格納できる「ウェルキャリア」も装着されている。



フレンドリー用品

な人のために物をとってこることなどができる「生活支援ロボット」を展示した。

そのほか、2015年の新型シエンタの発売とともに設定された、高齢者の乗降や移動をサポートするための「フレンドリー用品」も展示。「アシストグリップ（ヘッドレスト取付タイプ）」や「ランパーサポートクッション」が売れ筋となっており、現在は他の展示会で参考出品した商品のうち、来場者から評判のよかった製品の開発を進めているという。同社は「適応車種の拡大や設定品目を増やすことに加え、便利さがわかるようなPR動画を作るなどして、ユーザーへの浸透を図りたい」としている。



エスクァイア 車いす仕様車



ノア サイドリフトアップシート装着車



ハイエース 車いす仕様車

日産

8月に発売された新型「セレナ」より、「チェアキャブリフタータイプ」にロングステップと助手席スライドアップシートを装着した車両のほか、「セカンドスライドアップシート」「送迎タイプ」を出展。また、来春発売予定の



新型セレナ チェアキャブスロープタイプ

「チェアキャブスロープタイプ」を参考出品した。ブースでは、同車に搭載されている同一車線自動運転技術「プロパイロット」も紹介。今まで以上に広がった室内空間などとあわせて来場者にPRした。

そのほか、軽ワゴン車をベースとした車いす仕様車の「NV100 クリッパーリオ チェアキャブスロープタイプ」、公共交通として使われている「NV200 バネット ユニバーサルデザインタクシー」、 「NV350 キャラバン チェアキャブ仕様」など、セレナ以外にも計5台の福祉車両を展示した。

ホンダ

9月に発売された新型「フリードシリーズ」より、同社初のハイブリッド車いす仕様車である「フリードプラス ハイブリッド車いす仕様車」をはじめ、「フリードハイブリッド サイドリフトアップシート車」「フリード 助手席リフトアップシート車」を出展した。

車いす仕様車は、車いす利用者を含め最大で6名の乗車が可能。コンパクトながらも広大な室内空間を持つフリードプラスの特性を活かした作りとなっている。

また、「Honda・フランツシステム」を装着した「フィット」も出展。同システムはドアを閉めるだけで自動的に着用できる「パッシブシートベルト」、足元のペダルを自転車のように漕ぐだけでステアリング操作ができる「ステアリングペダル」、足でシフト操作のできる「足用シフトペダル」で構成されており、両上肢での運転が困難でも足だけで操作可能な、国内自動車メーカーでは同社だけが販売する運転補助装置である。

そのほかにも、7台の福祉車両を展示した。



フリードプラス ハイブリッド 車いす仕様車



Honda・フランツシステム装着車（フィット）

シティオートリース

試験運行をはじめたばかりの、運転補助装置を装着した車両のレンタカー事業をPRした。

同社はハイヤー・タクシー事業を運営する「日の丸リムジングループ」の一員である。グループでは「すべての人の移動が快適で楽しみに満ちたもの」になるよう力を注いでおり、この事業はハンディキャップのある人に移動の楽しみを提供するためにはじめたもの。同社によれば、「ハンディキャップのある人が自分で運転するための車両を貸し出す事業者は少ない」という。

最初は「アルファード」「ミニクーパー」「クラウンアスリート」の3車種からスタート。「ユーザーのニーズを探りながら、今後の方向性を決めたい」としている。



会場ではラインアップのひとつであるアルファードを展示した。

フジオート

新しい形状のシフトレバーサポートを参考出品した。

シフトレバーサポートは、シフトレバーの上に被さるように装着するタイプのものが一般的だ。しかし、近年はインパネシフトの車両が増えており、シフトレバーを一番下まで下げるとシフトレバーサポートと手動運転装置がぶつかるといった問題が発生していた。

そこで、同社はシフトノブを取り外して装着するタイプの製品を開発。現状では一般発売の予定はなく、特注品として対応するという。

